

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	アジア血液透析シンポジウム
(英語名称)	Asian Hemodialysis Symposium in Japan
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	竹澤真吾 教授 九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催 (2) 研究者の派遣・受入れ
【実施期間】†	2010年4月25日～2010年4月25日 (1日間)
【実施場所】†	延岡総合文化センター
【参加国・地域】†	中国・韓国・マレーシア・パキスタン・フィリピン (5カ国を予定)
【事業概要】	<p>【全体構想】アジアにおける医療、とくに血液透析分野は日本が特出しており、世界的に見てもそのレベルは極めて高い。一方、アジア諸国の透析医療は極めて遅れている状況であり、糖尿病患者の増加傾向を考えると透析患者が急増することは明らかであり、早急に透析医療の普及が望まれている。透析治療は複雑な装置を使用するものの、方法が世界的に統一されている。すなわち、日本の透析医療システムをアジア諸国の医師、看護師、技士に教育することによって日本のシステムがアジアに定着、技術の標準化が行われ、結果的にアジア諸国の多くの腎不全患者を救命することができる。さらに、アジア諸国で透析を定着するためには、アジアに適した医療装置の研究開発と、医師をはじめとする医療スタッフのさらなる教育が不可欠である。そこで、提案者は教育をはじめとする技術、システムを含めた日本の医療機器の普及を目指すこととした。このプロジェクトはアジアにおける血液透析医療が日本と同等レベルに向上し、今後急増する慢性腎不全患者に対応できるアジアネットワークの作成を目的とするものである。今回のシンポジウムは、これからのアジア諸国における血液透析医療の研究を大きく向上させる第一歩である。</p> <p>【構想を具現化するためのステップ】</p> <p>第1段階：今回の提案である。アジア諸国より医師を招聘し、透析をはじめとする医療の実態を披露していただく。今後の共同研究の可能性や、日本がどのように貢献すべきかを討論する。</p> <p>第2段階：関連学会・研究会と共に各国の医療実態調査を行い、望まれる医療システムを把握する。</p> <p>第3段階：各国から九州保健福祉大学へ医師、看護師、技士などを呼び、透析医療を含む知識と技術の伝授を日本の装置を用いて行う。</p> <p>第4段階：各国に日本の企業と共同でモデル的なクリニックあるいは透析室を作り、現地での医療普及の足がかりとする。</p> <p>第5段階：各国へ透析システムを含めた医療技術・ノウハウを輸出する。また、各国との医師交流プログラムも定着させ、アジア医工学センターを設立、研究開発と共に医療技術の標準化が行いやすい環境を創る。</p> <p>【今回の事業概要】5ヶ国の医師を招聘し、医療、とくに透析医療の現況を報告いただく。これから共同研究を行うための具体的な方法や、日本がどのように各国の医療へ貢献できるか討論し、第2段階へつなげていく。</p>